

国語 第3学年 音読を聞き合おう / すいせんのラッパ

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある4月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「どの言葉からこの読み方を考えたか」を問い、人物の行動や会話を手掛かりに読み方を選び、音読を聞き合う。音読の解釈メモの初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)イ	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(2)イ	イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、文章全体の内容意識しながら音読する。思考・判断・表現では、人物の行動や会話を手掛かりに読み方を選び、音読を聞き合う。交流や試行の前後を比べ、音読の解釈メモを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章全体の内容意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、人物の行動や会話を手掛かりに読み方を選び、音読を聞き合うという学習に取り組んでいる。（C(1)イ・C(2)イ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○場面の様子と人物の気持ちを想像する読みに関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す音読の解釈メモの内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2～5 （本時は5時）	○人物の行動や会話を手掛かりに読み方を選び、音読を聞き合う。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○どの言葉からこの読み方を考えたかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	6	○音読の解釈メモを仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



本時の案

本時の目標：人物の行動や会話を手掛かりに読み方を選び、音読を聞き合うことができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。 ○「どの言葉からこの読み方を考えたか」 【めあて】場面の様子と人物の気持ちを想像する読みについて、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ言葉でも前後の行動を見ると読み方を変えたい。 ・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。気持ちを本文から離れて決める姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 （ 分）	2 人物の行動や会話を手掛かりに読み方を選び、音読を聞き合う。 3 本文や資料のどこからそう考えたかを示し、「どの言葉からこの読み方を考えたか」について伝え合う。 4 友達と異なる点を本文や資料で確かめ、読みや説明を見直す。 5 選んだ読み方で再度音読し、聞き手に伝わった様子を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ言葉でも前後の行動を見ると読み方を変えたい。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	行動や会話の言葉と想像したことを分けて記録する。知識・技能では、文章全体の内容を意識しながら音読している。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①人物の行動や会話を手掛かりに読み方を選び、音読を聞き合うという学習に取り組んでいる。（C(1)イ・C(2)イ）（本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明・実際の音読）
まとめ （ 分）	5 音読の解釈メモを確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】音読では、本文の言葉や場面の様子を確かめ、その内容が伝わる声や間を選ぶ。 6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。どの言葉からこの読み方を考えたかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（音読の解釈メモと実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には場面の様子と人物の気持ちを想像する読みを確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に音読の解釈メモで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまづきやすい所と手当て

予想する難しさは、気持ちを本文から離れて決めることである。行動や会話の言葉と想像したことを分けて記録する。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

音読の解釈メモ

「どの言葉からこの読み方を考えたか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。行動や会話の言葉と想像したことを分けて記録するための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_3_202503.docx)／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口 (<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>)／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編 (https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf)／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo



LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

